






場面：家族盃

番号	画面	内容・台詞	時間
1		入間屋一家。遊戯場と食事場をぶち抜いた大広間。床の間に祭壇が設けられ、お凧様と入間川家の盃事が行われている。 達次郎が媒酌役、湧太郎が見届役に座し、入間屋一家の若衆のみならず、全国の神々が列席している。	
2		達次郎「これより、武州総鎮守秩父鬼姫山三代目花吹雪のお凧様と、関東入間屋一家六代目入間川堅太郎様並びにご家族様との間で家族の契りの盃を交わします。なお、この度は当事者に子供もいますので、水盃とさせていただきます」	
3		達次郎「手前、上州甘楽地方鎮守空っ風の達次郎が、双方の希望により、若輩ながら媒酌役を務めさせていただきます」	
4		達次郎「また、この度の盃につきましては、上州総鎮守湯煙の湧太郎様に、見届役を引き受けていただきます」 湧太郎がお辞儀する。	
5		達次郎「盃事の作法につきましては、古来より多くの流儀流派がございますが、この度は、武州秩父鬼姫山に伝わる作法に基づき執り行います。ご承認いただける方は拍手をお願い致します」 一同が拍手する。	

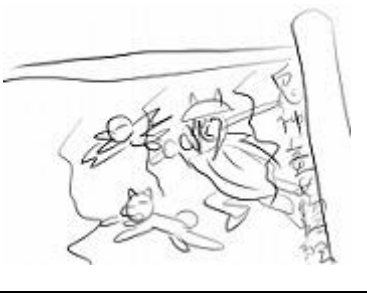
場面：家族盃

番号	画面	内容・台詞	時間
6		達次郎「それでは盃事を始めます」 達次郎が祭壇に乗せてある塩と水と盃を床に下ろし、盃五つに独特の動作で塩をひとつまみ盛り、水を注ぐ。	
7		達次郎「この度の盃事につきまして、万に一つ間違いがないとは思いますが、念のため盃を確かめさせていただきます」 達次郎が盃一つを飲む。 達次郎「間違いはございません」	
8		達次郎が盃をお凩様と入間川家の前に運んでいき、置いた後で数歩下がる。	
9		達次郎「花吹雪のお凩様に申し上げます。この盃を交わすことにより、お凩様は入間屋一家の家族神となります。家族神となられる以上は、一家の安全安心を守るため、時には命を捧げてでも精一杯努めねばなりません」	
10		達次郎「入間川堅太郎様及びご家族様に申し上げます。この盃を交わすことにより、お凩様が入間屋一家の家族神となります。家族神に迎える以上は、実の家族同様に大切にし、不信心の際は祟りをなすことも受け入れなければなりません」	

場面：家族盃

番号	画面	内容・台詞	時間
11		達次郎「神道の世界は、厳しい掟の世界です。計り知れない神の法に基づき生殺与奪が下されます。既に十二分にお覚悟がお有りでしょうが、腹が定まりましたらその盃を一気に飲み干し、懐深くお収めください」	
12		お凜様が盃を飲む。 きりっとした表情。	
13		堅太郎と清子、たけるが盃を飲む。 きりっとした表情。	
14		達次郎「ただ今、お凜様は正式に入間屋一家の家族神となりました。ご列席の皆様、一本締めにて終了させていただきます。お手を拝借」	
15		達次郎「よお～」 一同が手を叩く。 達次郎「おめでとうございます」 一同「おめでとうございます」	

場面：終幕絵巻

番号	画面	内容・台詞	時間
16		絵巻物。 字幕（語り）「お凜様の伝説は、まだまだ続くのである」 完	
17			
18			
19			
20			